

おすすめする「いえづくり」について

私が建築設計という職業を始めて35年が経とうとしています。そのあいだに戸建て住宅は5～60件くらい関わらせていただいたと思います。

近年思うことは家づくりだけではなく全ての事がそうなのでしょうが世の中いろいろな情報が簡単に手に入りやすくなり、あらゆるものがデジタル化し、良いか悪いかは別としてゆったりとものを創っていく場面が少なくなったように思います。図面をみていただくのに速達が一番早い送付手段であった時代と比べると当たり前なのかもしれませんが……。

最近はいえづくりについての情報がたくさん有り（この住ピタもそうですが……）建築家以上に知識をお持ちの方が多くなったと思います。また、一般の方々にとってもカッコイイ・あるいはイメージのふくらむシーンやテレビ番組や雑誌が盛りだくさんの時代となり、あれもこれもとつい欲張りになってしまいがちです……そこでその情報の整理という意味で「いえづくり」について私がみなさんに大事にしていっていただきたいことをいくつかあげさせてあげたいと思います。

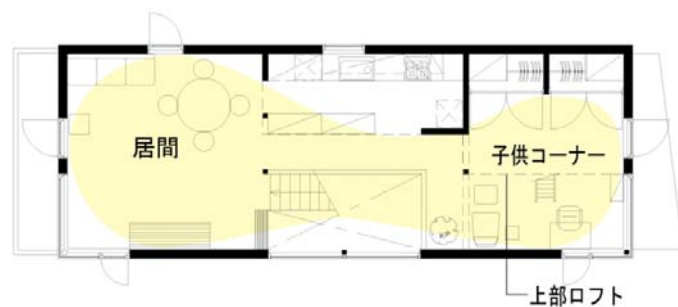
- ・ 一つめは、依頼者と私たち建築家との共同作業が大前提だと思います。建築家任せの受動的な家造りはおすすめできません。もちろんお持ちでしょうが家を建てる目的を明快に専門家である建築家にぶつけ、たくさんのお話をされるのが大切です。
- ・ 二つめはご家族のライフスタイルの変化をどうよんでいくかだと思います。どうしても新しい家を建てる時は夢いっぱい「今」を中心に計画を考えてしまいがちですが、将来の変化に対応力のある計画とアイデアをたくさんもつことが大切です。
- ・ 三つめはそれぞれの敷地の持つ特性をいろいろな角度から探し或いは読みとり、その特徴を最大限に使うこと。（or 消すことも重要です。）そしてご自分の住宅も周辺環境の一部であることを認識していただくことが大切です。
- ・ 四つめは建て主・建築家・施工者という「三つの和」が大切です。つまり、それぞれの関係（相性）が〇「まる」で有ることも「設計→施工→住まいつづける」というながれの中で安心して心地よく末永くすまい続けるという意味において大切なことではないかと思います。

今回は住宅をライフスタイルの変化ということに視点をあてて二つの事例を紹介させていただきます。

■ K's HOUSE

築18年くらいたった住宅を紹介します。傾斜地に建つこの家は50坪を切るちいさな敷地で、当初は夫婦と小一、幼稚園年中の二人の男の子の住宅です。“限られた敷地の中で、北国の生活に対し豊かに豊かな空間を確保するか”ということが最大のテーマとなりました。南東側に隣家が迫っているため、1階を水廻りと主寝室、2階を日常生活のスペースとしました。西側隣地は約5mの落差があるので、西側を居間にすることで、

眺望と日差しを確保しました。2階は家族のコミュニケーションが深められるよう、居間、食堂、台所、子供スペースの間には仕切りがなくオープンなプランになっています。1階と2階は階段の吹き抜けにより開放的につながっています。ちなみに、こうしたオープンな間取りでも1階ホールに置かれたFF式ストーブ1台で、全体の暖房をまかなうことができます。居間のコーナー窓からは手稲や定山溪方面の山並みが楽しめます。また、南側の細長い庭は全面道路と一体となる子供の遊び場となっていました。



2階平面図-①

下記は竣工時の画像です。



居間側より階段の吹き抜けを通して子供スペースをみる（建築時）



子供スペース



階段部吹き抜（玄関より）

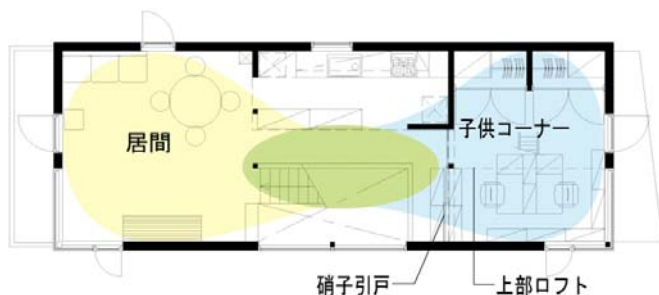


子供スペースより居間方向

2階部分は子供の成長とともに少しずつ変化しています。

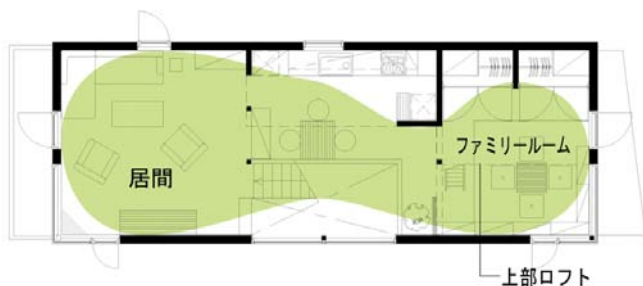
①当初は子供たちが中学低学年くらいまではオープンプランのまま子供コーナーは勉強室兼遊び場でした。（2階平面-①・・・上の平面です。）

②中学高学年くらいから音的に遮断する為に三枚硝子の引戸を設置。（高校生くらいからポスター等を硝子戸に貼り付けて子供達はプライバシーを確保、見通せなくなりました。）（2階平面-②）



2階平面図-②

③子供もそれぞれ独立し今は3人暮らし。子供コーナーはそろそろファミリールーム（大人コーナー）となる予定です。趣味の場・宴会の場・客間となります。（2階平面-③）



2階平面図-③



最近の画像です。(竣工時とほぼ同じアングルで撮って見ました)

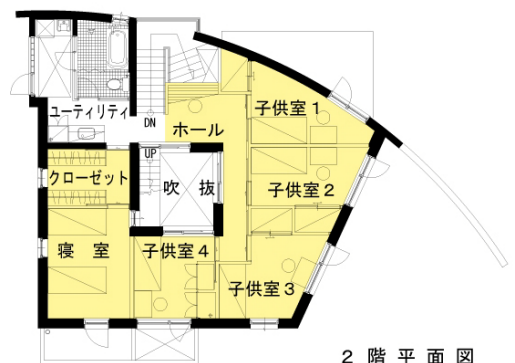
現在の硝子戸廻りのアップ画像です。

■ ライトコートのある家

ご夫婦と4人の子供達のための住まいです。敷地はまだ所々に畑の残る比較的ゆったりとした雰囲気のある住宅地です。敷地は東側の車庫とそこから北へ伸びるRの壁によりパブリックな部分とプライベートな部分に分かれており、またこのRの壁がこの住宅の表情を特徴づけています。Rの壁をくり貫いた玄関を抜けホールに立つとライトコートを通し居間やキッチン、上階の様子をうかがうことができます。1階はライトコート沿いに回遊できるようになっており、このご家族のたまり場となっています。2階は主寝室・4つの子供部屋と浴室・ユーティリティーのあるプライベートゾーンとなっています。



1階平面図



2階平面図

1階はライトコートを中心としたオープンプランとなって居間、食堂、台所についてはそれぞれのゾーンの区画は可動の家具によりなされています。また、2階の各個室の間仕切り壁は依頼主の要望で極力設備を入れないようにするなど、将来の変化に対し簡単に対応できるように計画施工されています。（2階平面の黄色く塗られた部分です。）

築1年が経過し、現在は子供達もそれぞれ独立されておりこのご家族のライフスタイルもかなり変わって来ています。今年はライトコート上部に硝子の屋根を設け半外部のバーベキューテラスに改修します。そして来年は2階部分の間仕切りを取り外し新たな機能を持ったスペースとして、1階は居間食堂間の間仕切り家具を撤去しあらたにレイアウトされる予定です。



外 観



和 室



食 堂



居間からライトコート方向を見る



玄関ホール



キッチン



ライトコート見上げ



ご主人手作りのファイア・プレイス



2階子供室、右の白い壁部分が簡易に撤去できます。

.....

建物が竣工してからがその住宅の機能としてのスタートであるともいえます。ご家族の新しい生活（=いえづくり=家族づくり）がはじまり、時とともにライフスタイルも変化していきます。

何かあるごとに建築家を頼りにしていただき、何でも気軽にご相談頂けることがもっとも大切であると常々考えています。